

「写真甲子園・東日本大震災被災高校写真部支援プロジェクト」 写真部高校生にカメラを

東川町、写真甲子園実行委員会、キヤノンMJ(株)、協賛雑誌社が5月10、11の両日、東日本大震災の津波で被災した宮城県内の高校6校の写真部、「安全・安心でおいしい地下水連絡協議会」に加盟している福島県川内村を訪れ被災のお見舞い慰問をしました。震災後2カ月、今なお残る被災後の闘い、復旧への歩みを進めている被災地の様子を写真で紹介します。



「今は写真を撮る気持ちになれないかもしれないけれど、
君たちが復興で立ち上がっていく姿を撮り続けてほしい」

— 立木 義浩



気仙沼向洋高校



石巻好文館高校



石巻市立女子高校



宮城農業高校

プレゼント～復興にエール

被災地の宮城県内高校を訪れたのは、「写真甲子園・東日本大震災被災高校写真部支援プロジェクト」の訪問団。写真甲子園実行委員会長の松岡市郎町長、同実行委の浜辺啓町会議長、写真甲子園審査委員長の写真家・立木義浩氏、協賛企業として被災高校の写真部にカメラ機材を提供したキヤノンMJ(株)の村瀬治男会長、協賛雑誌社の学研パブリッシング、集英社一行ら17人。

訪れた学校は、気仙沼向洋高校（気仙沼西高校仮校舎）、本吉響高校、石巻北高校、石巻好文館高校、石巻市立女子高校、宮城県農業高校（巨理高校仮校舎）。6校の写真部に写真甲子園実行委、キヤノンMJ、雑誌協力7社からそれぞれパソコン、デジタルカメラ、プリンター、協力雑誌7社の写真誌、写

真記録用のメモリーカード、消臭剤、高橋はるみ北海道知事の激励メッセージを届けました。

写真甲子園の常連出場校として強豪校の宮城県柴田農林高校写真部顧問、山下学先生から「写真甲子園に作品応募したくても機材すべてを流されて活動できない学校がたくさんある」と申し出を受け、今回の支援プロジェクトが実現しました。

6校訪問の後、松岡市郎町長は「安全・安心でおいしい地下水連絡協議会」に加盟している盟友自治体の福島県川内村を訪れました。

同村は福島原発から半径30km圏内として避難指示が出ています。松岡町長らは猪狩貢副村長らから村の避難状況など現状の説明を受け、復旧作業を激励しました。



全村避難になったため、川内村災害対策本部は、郡山市内の総合スポーツ施設(ビックパレット)敷地内の仮設プレハブで作業



約400m離れた港の加工場から流れ着いた魚が異臭を放っていました



町、町議会議員一同から猪狩副村長(写真左)に義援金を手渡しました



津波被害のすさまじさにあ然とする松岡町長ら